

## クロツラヘラサギ夏羽の飛来と繁殖行動

大門久之

〒926 石川県七尾市湊町1丁目63-5 (日本野鳥の会石川支部)

クロツラヘラサギ *Platalea minor* は朝鮮半島北西部の島で繁殖し、冬期は台湾、香港、ベトナムなどで越冬する (鄭ほか 1996)。日本では博多港など九州、沖縄で少数が越冬するが、その他の地域では希に飛来するのみである (鄭ほか 1996)。今回 1996 年 5 月 8 日から 1996 年 7 月 25 日までの繁殖期において、石川県で本種が 3 羽確認され、成鳥 2 羽がサギのコロニーのなかへ入ったのを観察することができたので報告する。観察地は、石川県鹿島郡田鶴浜町川尻川河口及び、田鶴浜町白浜のサギのコロニーである (図 1)。川尻川河口両岸はアシなどにおおわれ、干潮時には砂州・干潟ができる。サギのコロニーは河口から直線にして、1.2km 離れたところにある。コロニーはおもに針葉樹で構成され、優占種の樹高は 15~20m であり、ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*、アマサギ *Bubulcus ibis*、ダイサギ *Egretta alba*、チュウサギ *E. intermedia*、コサギ *E. garzetta*、アオサギ *Ardea cinerea* の 6 種が繁殖している。

1996 年 5 月 8 日にクロツラヘラサギ夏羽成鳥 1 羽を確認した。この個体の特徴は、ヘラサギ *P. leucorodia* のようにくちばしの先端が黄色くなっていることである。5 月 8 日から 5 月 14 日まで 7 回観察を行ない、7 回干潟で観察された。朝夕は干潟で採食をして、日中はほとんどカキ棚の上で寝ていることが多かった。

5 月 15 日から 5 月 19 日まで 5 回干潟で観察を行なったが、5 月 19 日の夕方にカキ棚の上で寝ているのが観察されたのみだった。5 月 20 日にはじめて、田鶴浜町白浜のサギのコロニーで観察され、それ以後も 6 月 24 日まで 14 回サギのコロニーで、12 回干潟で観察を行なったが、6 回コロニーで観察されたのみだった。はじめのうちは、コロニーの前の方において観察できたのだが、段々と奥の方へいくようになり、一日中観察して

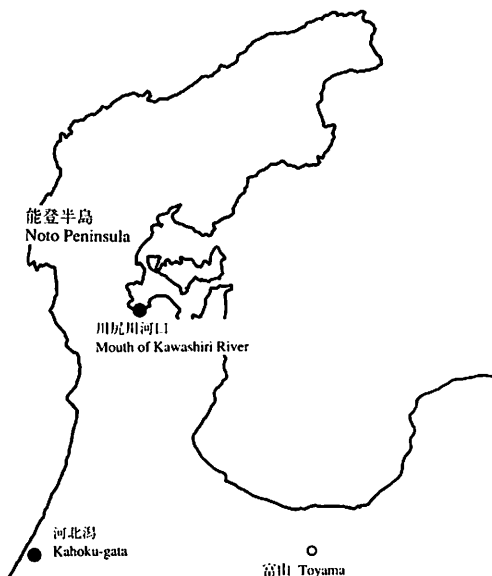


図 1. 川尻川河口および河北潟の概略図  
Fig. 1. Location of mouth of the Kawashiri River and Kahoku-gata marsh.

1996 年 12 月 24 日 受理

キーワード：石川県、クロツラヘラサギ、繁殖行動

いても姿が確認できないこともあった。コロニーの中では、サギの古巣の上で首を上下に動かしたりしていた。

6月24日川尻川河口にて、冠羽がけばだっていて黄色く、くちばし全体が黒く、胸の黄色が少ない成鳥と、くちばしの先が黒くなく翼の先が黒い若鳥を確認した。6月25日より、以前から観察されていた1羽を含んだ3羽で採食するところが確認されるようになり、体の大きさが、くちばしの黄色い個体がひとまわり大きかったことより、くちばしの黄色い個体が雄で、黒い個体が雌と思われた(図2)。6月26日には雄雌で巣材わたしが行なわれ、2羽でサギのコロニーに行くことが確認された(図3)。6月27日から成鳥2羽は日中は干潟に出てこなくなり、コロニーに滞在していて、夕方から干潟に出てくるようになった。コロニーでは23回観察を行ない、成鳥2羽が観察されたのは12回であった。干潟では、6月27日から7月15日までに日中に16回観察を行ない、風の強い日に3回観察された。夕方には15回観察を行ない、14回観察された。そのうち11回では、雄がくちばしで雌の頬、頭、首の順で羽毛をなでるような求愛行動が観察された。それ以外の時は、雄雌はくちばしを左右に振りながら水深の浅い場所で前進しながら、小魚などを捕食していた。

7月15日から、日中にも雄雌が干潟で観察されるようになった。この間、若鳥は日中干潟で採食し、枝をくわえて運んだりするのも観察された。7月15日以降、7月25日までのあいだ、干潟やカキ棚で朝夕そして日中も3羽が同時に観察され、ときおり雄雌の求愛行動が観察されたが、サギのコロニーへ行くことはなかった。そして7月26日から8月10日まで、12回の観察を行なったが、雌と若鳥はみられなくなった。その後8月10日から雌と若鳥が河北潟(図1)で観察されるようになった。おそらく時期的に近いということ、そして成鳥と若鳥という構成から、7月26日以降川尻川河口からみられなくなった同一個体と思われた。9月8日現在、雌と若鳥は河北潟にて観察され、9月10日現在、雄は川尻川河口にて観察されている。



図2. クロツラヘラサギの雄(右)と雌(中)と若鳥(左)  
Fig. 2. Male (right), female (center) and juvenile (left) Black-faced Spoonbills.



図3. サギのコロニー上のクロツラヘラサギの雄と雌  
Fig. 3. Male and female Black-faced Spoonbills at the colony of herons.

クロツラヘラサギは、アオサギなどのほかの鳥の巣を使って営巣すること (Chong *et al.* 1996)、巣材をくわえてサギのコロニーに入ったこと、雄雌の求愛行動がみられたことから、実際の造巣、交尾、産卵などは確認できなかったが、繁殖を行なおうとしたものと思われる。その後1か月もたたないうちに、繁殖活動がみられなくなったので、繁殖には失敗したものと思われる。前年にも、同一個体と思われる雄が観察されており、今後、当地で繁殖が行なわれる可能性がある。

#### 引用文献

- 鄭鐘烈・朴字日・林秋淵・金徳産. 1996. クロツラヘラサギ (*Platalea minor*) の渡りの経路と越冬地—第2報—. 朝鮮大学校学報 2:183-194.
- Chong, R., Pak, U., Rim, C. & Kim, T. 1996. Breeding biology of Black-faced Spoonbill *Platalea minor*. *Strix* 14: 1-10.

### A record of Black-faced Spoonbill display behavior in Ishikawa Prefecture

Hisayuki Daimon

1-63-5 Minato Town. Nanao City, Ishikawa Prefecture, 926

1. In the mouth of the Kawashiri River in Taturuhama Town, Kashima District, Ishikawa Prefecture, one adult Black-faced Spoonbill *Platalea minor* in breeding plumage was observed on May 8 1996.
2. One adult Black-faced Spoonbill in breeding plumage, and one juvenile Black-faced Spoonbill were observed in the mouth of the Kawashiri River on June 24.
3. Three Black-faced Spoonbills were observed in the mouth of the Kawashiri River on June 25. Judging from their body sizes, the adult Black-faced Spoonbills observed on May 8 and June 24 were male and female respectively.
4. Male and female Black-faced Spoonbills were not observed except in the evening from June 27 on, because they went into a heronry during the day. Display behaviour was also observed.
5. On July 15, three Black-faced Spoonbills were observed at the same time. The male and female Black-faced Spoonbills did not go into the heronry. On July 26, the female and the juvenile Black-faced Spoonbill were not observed.

**Key words:** *Black-faced Spoonbill, Ishikawa Prefecture, observed record*